

第5学年

1 題材 方言と共通語

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

子どもたちは、これまでに前単元の「わらぐつの中の神様」などの物語で独特の言葉、それぞれの地方で昔から使われ続け、人々の生活に深く根付いている言葉(方言)があるということを学習してきている。

本題材の学習は、方言と共通語の違いを理解し、また、必要に応じて共通語と方言を使い分けて話すことができるようにすることをねらいとしている。

さらに、ここでの学習は、第6学年2学期『言葉と文化』展示館へ、ようこそ」で、言葉と文化について関心をもち、文章を読んで要旨をとらえ、自分の課題をもつという学習へ発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

本題材は、まず、「塩味の足りないみそ汁の味」をどう表現するかという例に、東北地方と九州北部、中国地方では「あまい」、関西地方では「水くさい」、その他の地方で「うすい」、「あわい」など、その地方独特の言葉で表現される。また、「高熱で苦しいとき」の表現として、大阪では「しんど」、名古屋では「えれえ」、鹿児島では「きちい」という。このように、人々の気持ちや感覚をぴったり言い表すことができるのが方言のいいところだと思われる。

本教材を通して子どもたちは、方言の大切さに気付くとともに、方言だけでは、用件や気持ちが正確に伝わらないことも起こることに気付く。そこで、「共通語」が必要になることが分かる。

方言と共通語を相手や場と状況に応じて使い分けができるようにさせることが大切であると考え。

本教材の学習の中で、自分たちが普段遣っている方言について調べたり、他の地方との比較をさせたり、共通語に直すなどの活動を通して、それぞれの地方の言葉について考える機会にさせたい。

第6学年

1 題材 日本で使う文字

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

子どもたちはこれまでに、第2学年で「かたかなで書く言葉」、第3学年で「漢字の音と訓」、第4学年で「ローマ字」、第5学年で「仮名づかいの決まり」など、文字に関する学習をしてきている。

本題材の学習は、表音文字としての漢字の由来や特質などについて、初歩的な知識を得ることをねらいとしている。また、漢字の特質としては、表意文字の特性や音と訓が原則としてあること、漢字の字形、漢字の構成部分などについて初歩的な理解をもてるようにする。

さらに、ここでの学習は、2学期「送り仮名」で送り仮名の決まりについての知識をもち、正しい書き方を身につけるという学習へ発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

本題材は、もともと文字のなかった日本に、先人が大和言葉(和語)を書き表すために、中国から伝わった漢字を利用し、万葉仮名や平仮名・片仮名が作られたことを知ることや漢字との関係、仮名の由来を知る上で有効なものである。

本教材を通して、漢字は中国伝来のものであるが、それを取り込み、そこから平仮名・片仮名を発明した先人の知恵、漢字との共存、アルファベットまで交えて使いこなす日本の表記法のあり方は他国に例を見ないものであることで、日本語のすばらしさに気付かせることができると思われる。

本教材を通して、当たり前のように使っている平仮名・片仮名の由来や言葉への関心が深まり、前述のような何種類もの文字を操る日本人の誇りさえも再認識させることができるのではないかと考える。

本教材の学習の中で、日本で使われている文字についての由来や調べることで、文字があることでの利便性や文字の必要性について考えさせたい。

(3) 指導上の留意点

- ア 教科書の例をもとに，ある事・物・気持ちを表す言葉が，一通りではないという言葉の特色について理解させたい。
- イ 方言がなぜできたのかを考えさせ，それぞれの地方で昔から使われ続け，人々の生活に深く根ざした言葉であることを理解させたい。
- ウ 自分たちが普段遣っている言葉が，他の地域ではどう表現されているのか，また，まだ知らない奄美（喜界）の方言について，インターネットで調べさせたい。

3 目 標

- 身の回りで使われている方言や他の地方で使われている方言を調べる活動や共通語と比較する活動を通して，方言と共通語の違いについて知識をもち，関心を深める。

4 指導計画（全2時間）

時間	学 習 内 容
	・ 教材文を読んで方言とは何かを知り，方言について興味・関心をもつ。 ・ 方言と共通語の違いを理解し，場面による使い分けに気付く。
本時	・ 自分たちが普段遣っている言葉について調べたり，奄美（喜界）の方言に，鹿児島やその他の地方の方言について調べる。（事前にお年寄りへのインタビュー，インターネット活用）

5 本 時

(1) 目 標

- ・ 方言と共通語の違い，それぞれのよさについて考えることができ，場面による使い分けの大切さに気付くことができる。

(2) 本時の展開にあたって

- 家族や近所のお年寄りからの聞き取り調査を発表し，自分たちの地域で使われている方言について話し合わせることで，自分たちの住む地域の方言について興味・関心がもてるようにしたい。
- 子どもたちが調べた方言で文章をつくり，会話させることで，方言特有の

(3) 指導上の留意点

- ア 漢字のもつ形や音，意味をもとに，漢字と平仮名・片仮名の関係，平仮名・片仮名の由来について理解させたい。
- イ 仮名だけの不便さや漢字と仮名を交ぜて書き表す利点について，教科書の例文や低学年の書いた文章などを例に気付かせたい。
- ウ 平仮名・片仮名の起こりを，実際に万葉仮名をくずして書かせ体感させたい。
- エ パソコンにローマ字を入力させることにより，ローマ字が平仮名や片仮名と違うことなどにも気付かせたい。

3 目 標

- 万葉仮名をくずして平仮名や片仮名にする活動を通して，かなの由来などについて知識をもち，言葉や文字への関心を深める。

4 指導計画（全2時間）

時間	学 習 内 容
	・ 教材文を読んで，平仮名や片仮名がどのようにして作られた文字なのかについて知る。 ・ 平仮名や片仮名と漢字のちがいについて知る。
本時	・ 漢字，平仮名，片仮名のもつ役割について知る。 ・ 万葉仮名をくずして平仮名や片仮名にし，書いてみる。 ・ ローマ字とのかかわりについて知る。

5 本 時

(1) 目 標

- ・ 漢字，平仮名のもつ役割について気付くことができる。
- ・ 万葉仮名をくずして書くことで，平仮名や片仮名の起こりが理解できる。

(2) 本時の展開にあたって

- 教科書の仮名の由来についての記述から，先人が中国から伝わった漢字を利用し，平仮名・片仮名を発明したおかげで，現在のような表記法があることを知ることで，学習課題につなげるようにしたい。
- 万葉仮名をくずして平仮名や片仮名を書くことで，先人の知恵や努力を感

言葉の表現方法や共通語との違いを感じ取らせたい。

- 自分たちが調べてみたい言葉を他の地方ではどのように表現しているのかを比較させるため、インターネットを活用し調べさせたい。

じ取らせたい。

- 西洋から伝わった表音文字であるローマ字と平仮名・片仮名の関わりを知ると共に、駅名や標識、パソコンでの入力の際、ローマ字にふれる機会が増えていることに気付かせたい。

(3) 実 際

主 な 学 習 活 動	教師の位置	主 な 学 習 活 動
1. 本時の学習課題を確認する。 自分や家族、お年寄りが使っている方言について調べよう。	2	1. 前時の学習をふり返る。 ○ 教科書の仮名の由来について記述してあるページを読み、ノートにまとめたことを確認する。(グループ)
2. 方言調べ ○ 家族や近所のお年寄りから、普段使っている方言についてインタビューしてきたことを発表し、話し合う。 ○ 初めて聞く方言については、意味などノートにまとめる。	1 0	2. 本時の学習課題を確認する。 万葉仮名をくずして平仮名や片仮名を書いてみよう。
3. 方言調べ ○ 方言を使った文章を考え、友達同士で会話してみる。 ○ 共通語と比べてみる。	1 5	3. 毛筆で万葉仮名の字形をくずして平仮名や片仮名を書く。 ○ 毛筆(小筆)を用いて、教科書の手本を見て半紙に書く。
4. 方言調べ ○ 調べたい言葉をインターネットのホームページで調べる。 ・ 「鹿児島県方言集」で、鹿児島本土の方言、奄美の方言の違いなどを調べる。 ・ 「ふるさと日本のことば」で、各地方の方言について調べる。	1 0	4. 実際に万葉仮名の字形をくずして書いてみて、気付いたこと分かったことなどを話し合う。
5. 本時の学習のまとめ ○ 家族やお年寄りのインタビューやインターネットで調べて分かったことを発表し、まとめる。	8 2	5. 西洋から伝わった表音文字であるローマ字がパソコンの入力方法として用いられていることを知る。 ○ 実際に、文字をパソコンに入力し、平仮名・片仮名との違いを考える。

第5学年 方言と共通語で活用できそうなWebページ

「それいけしまんちゅ」
 「授業で役に立つリンク集」
 「方言をつかって話そう」
 「ふるさと日本のことば」
 「鹿児島県方言」(<http://www.osumi.or.jp/sakata/hougen/hotitle1.htm>)
 「全国方言webほべりぐ」(<http://hougen.atok.com/>)